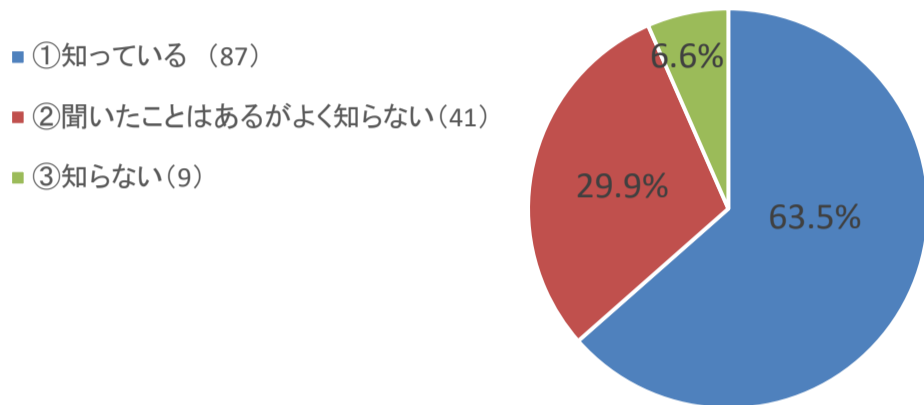


令和4年度ご近所福祉ネットワーク活動に関するアンケート調査結果報告

1. 目的
町内におけるご近所福祉ネットワーク活動の取り組み状況を把握することを目的に実施
2. 実施期間
令和4年10月25日～令和4年12月15日(再依頼含む)
3. アンケート対象
鯖江市内 全区長(153町内)
4. アンケート方法
全区長あてにアンケートを郵送し同封した返信用封筒にて返送または専用ホームにて回答
5. 回収状況
回収数 137町内 回答率 89.5%



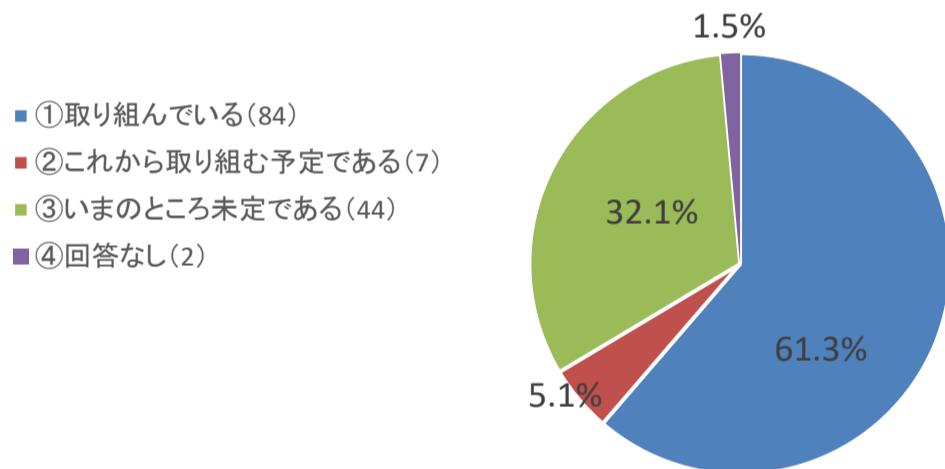
Q1 「ご近所福祉ネットワーク活動」を知っていますか？



●「ご近所福祉ネットワーク活動」を知っていますかとの問いについて、「知っている」との回答は全体の(63.5%)、「聞いたことはあるがよく知らない」は(29.9%)、知らないという回答は(6.6%)であった。

●「知っている」と「聞いたことはあるがよく知らない」の回答をあわせての結果は全体の(93.4%)となっている。

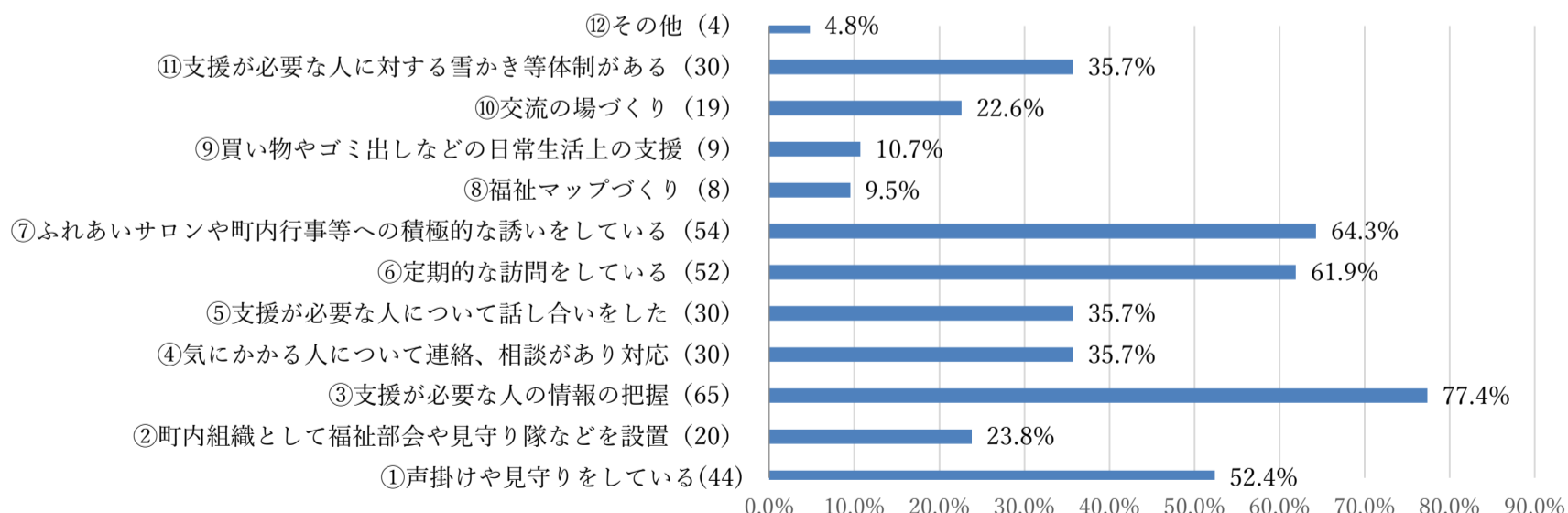
Q2 「ご近所福祉ネットワーク活動の取り組み状況はどうか？」



●「ご近所福祉ネットワーク活動」の取り組み状況について、「取り組んでいる」が(61.3%)。回答があった町内の半数以上で何らかの活動が行われている。

●「これから取り組む予定である」が(5.1%)、「いまのところ未定」が(32.1%)となっている。

Q3 取り組んでいる内容について (複数可)



⑫その他について

- ・ 募金など集金を通して声かけ
- ・ 班長を中心に配付物の配付時に気にかかる人の情報把握に努めている。
- ・ 班長会で高齢者名簿避難行動要支援者名簿を共有している。班長会で民生委員、福祉委員と意見交換会を実施。
- ・ 見守りネットワーク委員会の定期開催。様々な仕掛けも考えている。

取り組み内容については、「支援が必要な人の情報把握」が(77.4%)、「ふれあいサロンや町内行事への誘い」が(64.3%)、「定期的な訪問をしている」が(61.9%)と比率が高く、以下「声掛けや見守り」が(52.4%)、「気にかかる人について連絡、相談があり対応」「支援が必要な人について話し合いをした」「気にかかる人について連絡、相談があり対応」「支援が必要な人に対する雪かき等体制がある」(35.7%)と同率で続いている。

Q4 コロナ禍でご近所福祉活動が制限されていましたが、感染対策を実施したうえで再開されたことや新たに取組みされたことがあればお聞かせください。

すべての行事中止。役員会は公民館で感染対策を行い実施。
新規事業はないが、民生委員、福祉委員のほか区長など配り物の時、要支援者の前を通った時は必ず一声「元気ですか」と声をかけるようにしている。組織づくりも大切だが、こまめな日々の行動を実行することが大切。
ふれあいサロン再開(多数)
社会奉仕の後、町内全員による大抽選会を行った。
ゴミ出しボランティアの募集(現在再検討中)
町内タイムラインに沿った一時避難所を開設。8月豪雨、台風14号声かけ。
老人会を町内単位で開催。記念品を贈呈する際に面談、現状、困りごとを民生委員、福祉委員が聞き取りをした。
健康福祉部会の会議を開催し今後の取組みについて話し合った。包括から提案があった「行方不明者捜索」に関する研修等の実施について部会及び町内区長との協議を行って行く。
現時点ではないが、民生委員の交代があるので福祉委員とあわせて情報の連携を図りたい。
区独自の文化祭を開催予定。75歳以上の高齢者全員に豚汁無料券を配布。多くの高齢者に集まってもらい、区民や高齢者同士の場としたい。
防災・福祉委員会の設置
防災訓練時、要支援者の方々へ災害時の各班での助け合いについてお知らせした。これからもこのような機会を設けてさみしい思いをされている方へのコミュニケーションのできるイベントを考えたい。
4月から福祉事業部を設置。定期的に会議を開催し活動。来年サロンと協力し「餅つき会」を実施予定。要支援者に配る予定。
今のところ役員や民生委員と連絡を密にして支援が必要な人の情報を把握しながら必要に応じて対応。
自主防災訓練を時間短縮で実施。公民館までの避難ルートと所要時間の再確認。
町内防災訓練を実施。
一部近所の子を集めてハロウィンパーティをした。
夏祭りが中止となり若者を中心に焼き鳥などをテイクアウト無料で公民館に取りに来てもらった。
区長・民生委員と携帯電話で困りごと、心配ごとがあった場合のホットラインを設けている。
オカリナ教室愛好者による活動で不定期開催。
町内防災訓練にあわせて、見守り安否確認の実施。
敬老会中止により記念品配布時に安否確認・声掛け実施。往復はがきでの安否確認の内容をマンネリ化しないようにしている。委員会で各自の目標などを共有。
サロンへの誘い。ひとり暮らし、高齢者世帯が孤立しないよう何か考えたい。
高齢者に寄り添う町として町の防災訓練にて避難支援が必要な人を各班で把握して、誰が手助け出来るかを想定。
町内の役員にひとり暮らしや体の不自由な方の把握をしてもらい、日ごろの様子を気にかけてもらうようお願いしている。
新たに交流の場を広げるために公民館を利用した昭和のレコード鑑賞会を開催。好評の為地区文化祭においても開催。
山側に電気柵を設置した。今後管理を町内のみんなで月2回実施する時に声掛け、情報収集を行う。役員は年に20回以上町内活動に参加しているので、その都度町民の状況を共有している。
公民館でお達者を喜ぶ会(敬老会)を実施。
町内ゴミ分別講習会。

その他 アンケートに記入があった内容

支援が必要な人については日常の中で皆さんが気を付けている。
民生委員を中心とした活動はしている。
何度も声掛けをすると嫌がる人もいるので遠くからそっと見守るようにしている方が多い。
高齢者世帯が増え支える世代が少ない。
町内役員も若干高齢化しつつある。
町内での支援がしづらいので民生委員さんや福祉委員さんにまかせている。
高齢化がすすんでおり、町内役員会において高齢者宅への避難所設置連絡、避難誘導、除雪サポートなど今後マップや連絡網を作成していく協議を進めている。
この活動自体を区長会が理解できているか疑問。啓発活動がさらに必要ではないか。
声掛けや見守りは(台風・大雨)その都度している。防災訓練を通して気がかりな人について協議。集会で依頼した。
高齢者のコロナ感染リスクがあり、取組みの制限を解除できない状況である。
区の配り物の時にひとり暮らしの方に声掛けをしている。民生委員が声掛け、民生委員から相談あり。
年々高齢者が増えているので、ボランティア活動で困ったことを聞いたり、話し合いの場を広げたりしていく。ご近所で助け合いの精神をみんなで作ってあげていきたい。
何も再開していないが隣近所で意識して声掛け・見守りをしている。(個々が取り組んでいるような感じ)
今後、町内の防災委員会とも連携し、非常時の避難や関連したサポートにも対応できるよう検討を進めていく必要がある。
ご近所福祉ネットワーク活動は組織ありきではないのであえて組織づくりはしていない。その中で、区長、民生委員が連携して活動を行っている。地域のつながりを確保するためにサロンなどの参加勧誘や身体・家庭状況の確認や把握、運転免許証返納家庭へのゴミ出し支援を行っている。
実質的に活動していないのが、現状です。現在は、民生委員、区役員らを中心に区民の現状把握に努めている。